

2021 (令和3年) 1/22 金曜日

# 小学生新聞

MAINICHI

発行所 毎日新聞東京本社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

配達お問い合わせ 購読お申し込み

0120-468-012 (6-21時、一部地域は平日10-18時)

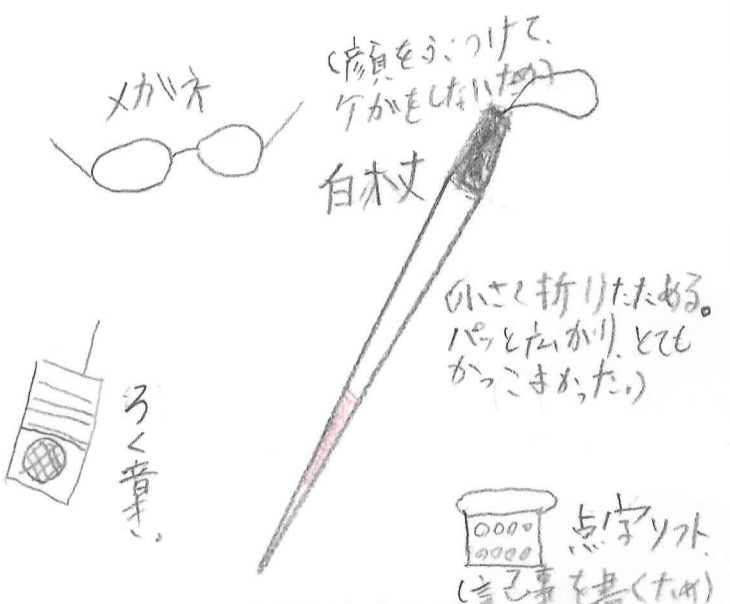


定価 1か月1750円 (本体1620円、消費税130円) ・1部70円

毎日小学生新聞編集部  
郵便 〒100-8051 (住所不要)  
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321  
メール maishou@mainichi.co.jp

# すごいぞ!点字新聞

## 取材の七つ道具



ていねいを大切に  
みなさんは、点字新聞を  
知っていますか。知らない人も  
少なくないのではないので  
しよつかたなので日本でも一つ  
しかない点字新聞、点字  
毎日について、ほくが一月三日  
日にオンラインを取材しました

点字新聞、四字熟語、おたいてか、いいですよ、点字新聞の役目は、目か不自由な人に情報をとどける事です。今日は、その点字新聞の作り方や工夫を説明します。点字新聞の作り方は、新聞と同じく取材をします。実はい、点字毎日で働いてる、全七目的、記者、佐木理人さんは、毎回知らず知らずのうちに取材に行くので、きんちょうしています。たので、別もって下調べをしたりして、対話をとります。と話して

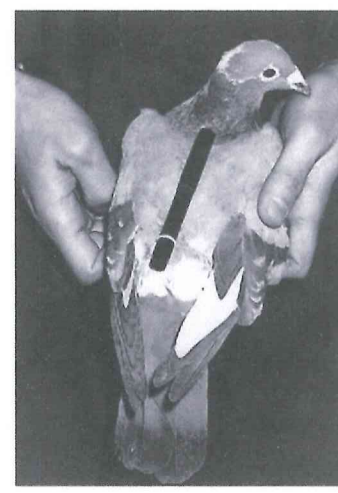
【羽鳥哲聖】  
いまた、次にすることは、取材の情報を元に記事を作り、それを最後に、全七目の人に指で確認してもらいます。そして、その記事をさつして、そのよう板を紙におしつけて、点字につけて、点字新聞が完成しました。このま、つにたくさんの人がたすわって、点字新聞が成りたてたのです。ほくは、そこを改めておとろま、そして感心しました。

## 伝書鳩の思いなるほドリへ

毎日新聞東京本社、縁豊かな皇居のほとりにある。本社が入るパレスサイドビル(東京都千代田区一ツ橋)の屋上には、6羽のハトの像が置かれている。ビルの設計者からの依頼で制作されたというが、なぜハトの像なのか。  
今のように交通や通信が発達していなかった100年ほど前、「伝書鳩」は新聞社にとって重要な通信方法

だった。「伝書鳩」はハトの帰巣本能を活用。東京の各新聞社では100羽以上のハトを屋上で飼っていた。取材現場から原稿を送るときは、ハトを数羽つれていったという。記者は通信用のうすい紙に記事を書き、長さ4センチほどの筒に入れてハトの足につけて放った。写真フィルムは長さ10センチほどの筒に入れ背中にゴムバンドで背負わせた。ハトが

新聞社にもどるとハト係が記事や写真を担当に渡した。ハトたちは原稿やフィルムを何百枚も運んだ。ハトには成績表がつけられ、成績が優秀なハトほど出勤回数が多かった。成績が悪かったハトは、運動会を盛り上げるためにくす玉から飛び出す役をつとめたという。毎日新聞では、東京オリンピックの次の年(1965年)まで大活躍した。「なるほドリ」の尊敬するトリは伝書鳩。ハトたちのがんばりは今も受け継がれている。



背中に写真フィルムをいれる筒を背負った伝書鳩。原稿は筒に入れ、新聞社に戻る時、タカに襲われる危険があり、複数の伝書鳩が同じ原稿を運んだ